

リンクスの 事業再生現場

レポート 第46回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL: 028-634-5088
Mail: info@rincs.biz
URL: http://www.rincs.biz/

【短期運転資金と長期運転資金】

以前のクライアント先から、突然の連絡が入りました。「古くからの知り合いのA社が弁護士のところへ破産の相談に行くと言っているのです、その前に至急会って相談に乗ってもらえないか。」

早速、A社を訪れ、事業の現状と今後の見込みを聞き取りました。売上はピークに比較すると40%ダウンですが、ここ数年は比較的安定しています。損益は若干の赤字といったところです。債務は、過去の経営の失敗が累積赤字となって、年商の60%にまで膨らんでいるようですが、何故、破産まで考えなければならないのか理解できません。

そこで、「何故、事業継続できないと考えているのですか。」と質問を変えてみたところ、当月末にメインバンクからの手形借入10百万円の期日が来るとのことです。従来、売掛金のリストを提出し、その範囲内で短期の資金を調達しているようです。10百万円を返済すると、資金不足額が12百万円。新規で調達する短期運転資金の見合いとなる売掛金が8百万円しかないため、資金不足を埋められないのです。

一方、長期で調達している運転資金は年間10百万円返済しています。最後に調達した長期運転資金が2年前であり、約20百万円返済が進んでいます。資金が不足するのも当然です。利益以上に返済が進んでいるのですから、再調達が図れなければ資金ショートです。原因はメインバンクの貸出方法にあるようです。月末まで時間もないため、翌日、メインバンクに資金繰りの相談と、手形借入の期限延長申し出をアドバイス

して、その日は帰社しました。

翌日午後、月末期日の手形借入の期限延長がメインバンクに聞き入れられたとの連絡をいただきました。それと同時にメインバンクの次長から私どもの方にも連絡がありました。私どもも交えて、今後の方針を打ち合わせしたいとのこと。その次長は以前、別の事案でクライアントのために活躍してくれた方です。A社は借入金額もさほど大きくないため、今までは担当者が仕切っていたと思われます。次長と話ができれば、こちらの意図は理解してもらえるはずです。

打ち合わせ早々、私どもの方から、担当者に向けて敢えて厳しい話をします。「審査が通り易い短期運転資金で対応してきたのですが、長期運転資金の再調達なしでは、このような事態が来ることは理解できますよね。お客様のことを慮って貸出方法を考えてあげないと。銀行の都合で貸出スタンスを決めて、それに合致しないと支援ストップでは、あまりにも気の毒でしょう。」

若い担当者は、何を言われているのか理解できていないようですが、次長は真意を理解したようです。「債務超過のため、短期資金の支援をしてきましたが、全体の資金繰りを考えれば、もう一歩踏み込むべきでした。リンクスさんから御提案いただければ、検討いたします。」

破産まで考えていた社長さん、途端に本来の自分に戻ったようです。従業員とその家族のためにも事業継続に向けて努力していきましょう。



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。